

## Y04a 高校理科必修科目に関するカリキュラム研究 (IV)

縣秀彦 (国立天文台), 日隈脩一郎 (東大/国立天文台), 海部健三 (中央大), 亀田直記 (京都教育大), 都築功, 今井泉 (岐阜聖徳学園大) ほか理科基礎検討研究グループ

本研究グループは高校の理科4領域が, ほぼ独立して指導されている一方, その内実は相互に関連しながら現代社会の問題に密接に関連していることを重視し, 科学教育の意義・目的と現代社会における役割を再考し, 生徒の課題発見と課題解決能力の育成を主眼とした総合的かつ基礎的な共通必修科目を構想し, 実践・評価することを目的に5年間活動してきた。

2025年4月にJSPS 科研費22H01071 最終報告書を刊行し, それまでの議論の結論として3つのカリキュラム案を発表した。それらは(1) 現行学習指導要領からの移行のしやすさを重視した「理科A+理科B」案(3単位x2科目), (2) 分野間教科間の連携や課題解決を重視した「統合理科」案(4単位+2単位), (3) 科学の基本的な見方や概念, 生徒主体の視点を取り入れた「1,2分野・探究」案(2単位x3科目)である。その後, 高校・大学教員など18名による第三者評価をルーブリックのような採点表と自由記述の併用によるアンケート形式にて2025年4-7月に実施した。その結果, 例えば統合理科案は特にリソースや実現可能性への懸念が示されるなど各カリキュラム案の長所短所が明示された。これらを踏まえ, 次期学習指導要領で実装可能な3つのカリキュラム案を完成させ, 「理科基礎」検討研究グループのウェブページで公表するとともに中教審や日本学術会議等に提案し実装を要望した。年会開催時には次期学習指導要領の科目編成が確定している見込みなので, 本講演ではその結果を踏まえて総括する予定である。